

香楠会



香楠会館ロビー

2020
10月
[第18号]

同窓会長・学校長あいさつ	2
各界で活躍する同窓生	3
地元で活躍する同窓生	4
なつかしき恩師	5
母校の思い出	6～7
鳥栖高校・香楠中学校はいま	8～9
お知らせ・ご案内	10

◆題字／原 春代(旧姓 天本 雅号・春景 昭34年卒)
◆表紙絵／日山 軍記(昭35年卒)

ごあいさつ

香楠会(鳥栖高校同窓会)会長

指山 清範(昭和59年卒)



香楠会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて今般、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界的な感染拡大によって人類に大

コロナに負けない

学校長 林 嘉 英



今年も暑い夏がやってきました。香楠会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

今年コロナ禍によって、様々な方面に影響が出ています。鳥栖高校・香楠中学校に

が、身の安全は何物にも代えられませんが、コロナとの闘いに勝利するためにも気を緩めずにご自愛ください。

また東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、様々なイベントが延期や中止となっています。中学生や高校生の大会も延期や中止になり、学生にとっての大切な青春の1ページを奪われたと言っても過言ではないでしょう。ただ佐賀県によってSSP杯を開いていただいたことは特に高校3年生にとっては極めてもの救いとなったことと思います。

しかし、学校が再開され、日常を取り戻しつつあるとはいえ、今年にはスポーツや文化活動に励んできた生徒諸君にとって辛い年でした。県高校総体をはじめ各種大会や催しが中止となり、これまで練習してきた成果を発表する場がなくなってしまうました。

それでも生徒諸君は代替として開催されたSSP杯で活躍したり、気持ちを切り替えて勉強に集中したりとそれぞれが出した結論に沿って頑張ってくれています。学校としても、授業の遅れを取り戻

ます。

併せて本年の『大同窓会』につきましても、香楠会正副会長と学年幹事や次年度学年幹事の代表とで協議し、本年度の中止を決定いたしました。かねてより楽しみにされていた方々もおられることと思いますが、お互いの健康と未来のため、ひいては社会のために、苦渋の決断となりました。ことをご理解いただければと存じます。

そういうコロナ禍ではありますが、卒業生や現役生徒の活躍ぶりを紹介すべく色紙や

すだけではなく、様々な学校行事を感染拡大防止に配慮しながら、できるだけ実施する方針です。それに応えるかのよう、生徒会ではコロナウィルスの感染拡大防止の取り組みを進めるためのアンケートを実施し、クラスマッチや鳥栖香楠祭についても「こうしたらできる」というアイデアを出しながら企画を立てており、頼もしい限りです。

私は、困難な状況の中でも生徒諸君がこのように前向きに頑張っていくことができる

トロフィー、衣装等を飾る展示スペースを香楠会館内に設けました。是非会館まで足を運んでご覧いただければと思います。また老朽化が進む会館の修繕等も計画的に進め100周年までにはなんとか進んで、進化した香楠会館をお見せできればと思っております。

結びに香楠会会員の皆様のご多幸ご健勝と鳥栖高校・香楠中学校の益々のご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

のは、生徒が自律的で主体性に富むことと、伝統的に未来志向で積極性に富む明るい雰囲気。鳥栖高校にあることだと考えています。これは現在の私たちにとって大きな財産です。

最後になりましたが、このような良き伝統を築いてくれた香楠会会員の皆様に感謝申し上げます。ますますのご健勝とご多幸を祈念してご挨拶いたします。

● 各界でご活躍の同窓生 ●

自分を信じて

平成16年卒(第56回生)
SALONE(サローネ)2007 料理長

弓削 啓太



は本当にもっと勉強してお
くべきだったと悔やみまし
た(笑)。会話ができない
私は、与えられた仕事をた
だ一所懸命やる事でしか自
己表現できませんでした。
ですから、たとえ単純な皿
洗いの仕事でも必死に頑張
りました。語学習得を第一
として留学していましたの

今こうして筆を執り、鳥栖高校で
の学生生活を振り返ると、卒業から
早18年という時間が経っていること
に驚きます。当時みんなと同じよう
に大学進学を試みたものの、残念な
がらそれは叶いませんでした。しか
しながら浪人してまで大学に進学し
て何かを学びたいという情熱もな
かった為、卒業してすぐワーキング
ホリデービザを取得し、とりあえず
英語だけでも身に付けようとバン
クーバーへ語学留学することにしま
した。

で勿論英語を話す機会を伺ってはい
ましたが、キッチンの中は皆忙しく、
会話のできない私を構っている暇な
どありません。しかし、何としても
会話をするチャンスが欲しいと思っ
た私は、誰よりも早く且つ綺麗に自
分の仕事を済ませ、更に他の料理人
の手伝いをする事で会話をする機
会を増やしていきました。すると、
私が手伝った料理人達が気を良くし
て話しかけてきてくれるようになった
のです。それは涙が出るほど嬉し
いことでした。それから仕事は楽
しくなり、より一層頑張りました。
そんな私を見て、今度は料理長がこ
んな話を持ち掛けてくれました。「料
理に興味はないのか?友人が料理学
校の講師をしている。興味があるな

ら紹介してあげよう。」と。一所懸命
にやっていたらこんなことが起きる
のかと驚きましたし、全てが報われ
たような気持ちになりました。そして、
それが私の人生のターニングポイン
トになったのです。以降、流れに身
を任せるようにバンクーバーで料理
学校に進み、その後現地のホテルに
務めました。そうして気が付けば留
学して三年が経っていました。英会
話もそれなりにできるようになった
私は、今度は料理の腕を磨こうと帰
国を決意したのでした。

帰国後、どうせやるなら日本で一
番の店で働いてみたいと、半ば怖い
もの見たさにも似た興味本位から銀
座の老舗フランス料理店で修業を始
めました。流石名店。調理人の数は
多く、なかなか思うような仕事を頂
けず、思い描いていた自分とのギャッ
プに苦しむことも多くなりました。
その様な中、気持ちの面で鳥栖高校
野球部での鍛練が本当に自分の支え
になりました。野球部で仲間達と切
磋琢磨したところの経験があったこと
で、人一倍負けられないという気持
ちになれたと思います。野球と一緒
で料理も何もしなければ上達なんか
しません。うまくいかないことがあつ
ても、少しでも前に進む気持ちで、
日々の積み重ねをやり続けることで
しかその先はありません。与えられ

た仕事を一所懸命やり遂げる、欲を
言うとその以上のことをやる姿勢が
大切だと思います。

それから、パリの三ツ星レストラン
で研鑽を積み、イタリア料理に転向
して現在に至るまで、目の前のこと
をただ一所懸命がむしやらにやって
生きてきたという感じではあります
が、鳥栖高校並びに野球部で培った
経験があったからこそ様々な壁を乗
り越えることができたのは確かです。

現在、横浜のイタリア料理店で料
理長をやらせて頂いています。調理
場は20代前半の若い子たちが多く、
活気のあるチームです。今は彼らと
ともに日々真剣に料理と向き合い、
今までお世話になった多くの先生方
や諸先輩方をお手本にさせていただ
きながら、自分なりに指導者として
次の世代に何か貢献できればと模索
する毎日です。学生の頃から自分
の中で大切にしてきたのは「一所懸命」
でした。

そして今
でも変わ
らずに大
切にして
います。



後列左から3番目が筆者

● 地元でご活躍の同窓生 ●

鳥栖高校の思い出と今の私

昭和44年卒(第21回生) 萬歳寺住職 石橋 亨見



学当初の教室は音楽室でした。入学直後いきなり2組の室長に指名され戸惑いましたが、私の内向的な性格

私の住まいは標高350Mの山間の出身です。現在24戸になりました

が当時は40戸ぐらいいはあったと記憶いたしております。元鳥栖市長の山下英雄氏をはじめいろいろな方が河内の出身です。私の小学校の同級生は11人おりましたが地元に残っているのは私だけになりました。

私は鳥栖高校には昭和41年の4月に入学し、担任は中山節次先生でした。平成19年の創立80周年の折に私は同窓会の記念誌担当となり先生に原稿のお願いに行きまして40年ぶりに再会を果たしました。体調不良のため、学校を長く休んでいた折、中山節次先生がわざわざ私の家までお見舞いに訪問してくださったことを思い出しました。当時の校舎は改築中

を変えたいにはいい出来事だったかも知れません。

2年と3年の時の担任は梁井進先生でした。先生は昭和26年から46年まで20年間鳥栖高校に在籍され、私たちが最後の学年だったそうです。先生にも創立80周年の記念誌に寄稿いただきました。

寺の後継ぎということで、仏教系の大学に進学しました。寺の子息が多く在籍しており、そこで私と同じ境遇の人と共感し合うことができ僧職になる決意をしました。大学卒業後は禅の専門道場に2年間在籍いたしました。

平成元年から萬歳寺の住職を拝命しております。この寺は約六〇〇年前の室町時代初期に創建されました。開山(初代)和尚は以享得謙禪師で、

当時中国に渡られて30年間修行され、日本に帰られて、鎌倉、京都を回り鳥栖に來られました。その折、中国から、禅師の師匠である見心來復禅師の頂相(肖像画)を当寺に伝えられました。また禅師の頂相も同じく伝えられており、この二幅が昭和62年に国指定重要文化財に指定されました。これを機に私は禅師の修行地を訪れ、六〇〇年の時空を超えて交流を続けております。このことは私の在職期間中の特筆すべきことでした。

平成20年頃、鳥栖高校と再度かわりを持つことになりました。その当時、鳥栖高校では生徒たちに様々な体験をさせるための教養講座が開かれており、その一つとして禅の講座を数年間持たせていただきました。このような形で母校とかわりを持つたせていただいたことに感謝しているところです。

また、私事で恐縮ですが、昭和58年から36年間、地区の民生・児童委員として務めさせていただき、その功労ということで平成25年に藍綬褒章の栄に浴しました。

このように私は地域の皆様とともに生かされてきました。おそらく地

元に骨をうずめる覚悟ですが、これもまた明日のことはわかりません。同級生も何人かはもうすでにあの世に旅立ちました。冥途の土産に何か面白い話でも持っていきたいものだと思っております。

【日は好日】これは禅の言葉です。苦しい日が楽しい日の種であり、また逆も然りです。自分にとって好日の一日を過ごしていきたいものだと思います。

末筆ながら、同窓生の皆様に幸あらん事を願いつつ、日々感謝しながら筆をおきたいと存じます。



なつかしき恩師

青春の絆

「村田先生を囲む会」継続の秘訣

昭和35年卒(第12回生) 舟木 正孝



村田 亮 先生

毎年開催している「村田先生を囲む会」は、同級生の古賀泰彦君が34

HRの担任だった村田先生に恩返しをしようじゃないかとの呼びかけで

始めたのが会の起り。世話人数名で打ち合わせを重ね、先生の誕生日が

赤穂浪士の討ち入りの日だったので12月14日を「村田先生を囲む会」の日に決定。

古賀君を発起人として六名による、連判状(案内状)を送ることになった。

『省みますに生徒一同、師の秀れた指導力と誠実、高潔なるお人柄に接し、向学心を燃え上がらせ、日夜勉学に励みました。昨春、12回卒業生同窓会にて久しくご尊顔を拝しました折、変わらぬ誠実なお人柄と共に、今も大学で教鞭をとられご趣味をも楽しまれている由。尊敬する師、かつ人

生の師としても感動を覚えた次第です。かくなる事柄をふまえクラス会を呼び掛けましたところ半数以上の友が師との再会を楽しみにして「師の誕生日」という佳き日に集うことになりました。云々」このような主旨の連判状の形で案内状を出し、平成5年12月14日、光琳飯店で第一回「村田先生を囲む会」を開催した。

翌年からは34HRのみならず他のクラスや直接授業を受けなかった同級生も参加してくれた。

先生は昭和29年から平成2年3月まで(途中昭和49年から5年間は三養基高校)本校の英語教師として奉職。現役時代は背広の着こなしもピシッとカッコよくダンディで特に女生徒に人気の的であった。

卒業以来30年経った平成2年3月、先生の退職記念祝賀会では、先生を囲んで懐かしい話に花が咲き、気持ちが高校時代にタイムスリップ。30年の歳月を感じずにはいられないような同級生との再会でもあったが「村

田先生だけが昔のままで若い」と誰かが叫んだその言葉が印象的だった。

毎年先生と顔を合わせているが、先生はいつも若々しく、我々教養子の方が年寄りじみていて、先生に若さの秘訣を尋ねると、「いつも皆さんから頂いているよ。」とおっしゃられるが、反対に我々の方が先生から若さを頂いているようなものだ。先生は退職後すぐに大学と予備校に10年間勤務、さらに別の大学に10年間勤務され、若き学生諸君から元気を吸収し、若さを倍加されたものと推察。

それ以外にも先生の若さ・元気さの源は、自動車免許を早期に返納され、自分の足を使つての通勤。趣味の写真撮影も公共交通機関を利用して、アルプスや富士山など国内外の景勝地の素晴らしい写真(毎年の年賀状や礼状)を撮るには「自分の足を使つて歩き廻らないとダメでゴルフでも自分自身の足を使つてプレーするのと同じだよ。」とおっしゃる。このように自分の足と頭を使つて世界を見て、足と頭脳を鍛えてあるのが若さを保つ秘訣だとヤブ医者(舟木のこと)の診断!!

私が小学4年の悪ガキが、校長室

に立たされた折、油絵に加筆(いたずら)をして見つかり、「君は絵の心得があるのかな?またおいで」と言ってくださった村田欽輔校長先生がなんと村田先生のおじさんに当たられると聞いて深いご縁を感じた。

先生の米寿や卒寿の祝賀会にも大勢の友が駆け付け、逆に先生から若さをいただいたような気持ちになったのは私一人ではなかったと思う。この「村田先生を囲む会」は先生がお元気でいらっしゃる限り絶対続け、皆で若さを保つていきたいものだ。願わくば「師弟の絆、永遠に」



「村田先生を囲む会」

下から2段目右端が古賀泰彦君、筆者は右から3番目

懐かしき木造校舎時代

昭和35年卒(第12回生) 日山 軍記



私が昭和三十二年四月に入學した鳥栖高校普通科は、昭和初期に建てられた古い木造校舎で、いかにも学校という風情と貫禄のある堂々たる建物でした。

入学当時は普通科、商業科、家庭科があり、普通科といっても六割が就職組でした。家業の八起のキャンデー店の跡継ぎをするつもりだった私は、進学も就職活動もしないので勉強面では大変気が楽でした。早く帰って家の手伝いをしなければならなかったのですが、部活動ではそういう事情は通用しませんでした。勧誘には3年生が竹刀で机を叩きながら教室に乱入してきて「お前は何部に入るか」と一年生を脅すのです。私が「柔道部です」と答えると、名前をノートに書かれ、半ば強制的に運動部に入部させられました。

が一番面白く、懐かしく、友達もいっぱいだったので、やはり鳥栖高校に来てよかったと思っています。

柔道部の練習は放課後、講堂で行われました。入部した一年生約十名はカビ臭くて湿った柔道着を着せられ、上級生の練習相手としてひたすらドタンバタンと畳に叩きつけられる毎日でした。二年生になると先輩面してあだこうだと受け売りの指導をしていました。二期以降は三年生が受験や就職活動であまり練習に來なくなつたので、二年生の天下でした。この頃から有難いことに店の手伝いを優先することができるようになりました。

私の店は駅前のフレスポ鳥栖(元専売公社)の前の元中央市場商店街の中にありました。そこには喫茶店や卓球場があり、少し奥に入ると映画館などがある歓楽街だったので、ここに近づく学生は不良だといわれていました。

私の高校生活はあつといふ間に過ぎていききました。私は青春の三年間、一体何をしていたのだらうと思いません。でも今思えばあの頃

卒業して六十年も経ちますが、娘が入学した平成二年からずっと学校新聞や香楠会報のイラストや表紙絵などを描いており、今でも母校との縁が続いています。

私の絵を楽しみにしていると言ってくださる方々もおられます。これからも香楠会報共々よろしくお願ひします。

鳥栖高校からは、たくさんのお傑物が出ておられます。今後もしっかりと出られることを願っております。



鳥栖高校時代と今の私

昭和37年卒(第14回生) 長井(増田)雅子



高校を卒業して、はや半世紀になります。

高校を卒業して

高校を卒業し、福岡のタイピスト学校に進学し、福岡日産自動車に入社しました。入社して会社のテニスクラブにも入りました。やがて結婚をし、三人の子どもにも恵まれました。現在は不動産業をしています。ゴルフも福岡県の佐賀県人会のメンバーとして、鳥栖高校出身の方々とプレーを楽しんでいます。益や正月に里帰りして鳥栖に着くと、高校時代のこと懐かしく思い出され、気持ち若返ります。

福岡に住んでいますが、時々鳥栖高校出身の方とお会いし、後輩諸君が学業の面でも運動の面でも大活躍をしていることをお聞きしています。鳥栖高校がレベルアップしていることを、本当に嬉しく誇らしく思います。

テニス部の思い出

私は高校時代、テニス部でした。顧問の先生は、「ツータン」こと築山先生や、高橋先生、近藤先生でした。毎日毎日暗くなるまで練習し、真っ黒に日焼けしていました。時々、帰り道に校門の横にあつた清水ラーメン屋で「素ラーメン」を食べたり、八起キャンデー屋によって、ミルクやあずきのアイスキャンデーを食べたりするのが楽しみでした。夏は県大会や国体選抜大会に向けて合宿があり、家庭科教室(和室)に皆で寝泊まりし、早朝から練習に練習を重ねま

した。その成果もあって、先輩や後輩は県大会や国体に出場することができました。私も応援



高校1年の時

気持ちだけはあの頃のまま

平成7年卒(第47回生) 山口 修



鳥栖高校の近くを通ると、私が通った四半世紀前と変わらぬ校舎や在校生の制服

姿に、鼻の奥がツンとして、気恥ずかしくも誇らしいような様々な三年間の思い出が蘇ってきます。

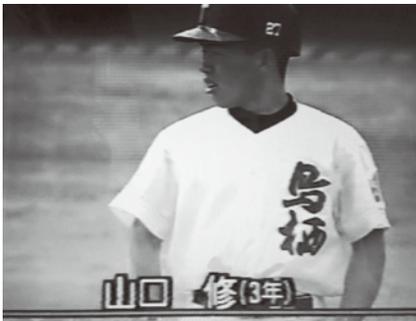
私は、甲子園出場と大学進学を目指し、鳥栖高校に入学しました。正直に言えば、私は野球馬鹿だったので、野球さえできればよかったです。しかし、父からの野球部への入部条件が「成績が下がったら、即退部」でしたので、野球を続けるためにひたすら勉強したというのが実際のところでした。

野球に明け暮れた生活も、26年前、第一シードで挑んだ最後の夏は3回戦で敗退。その日は、三者面談で授業短縮だったので、想像以上に多くの同級生が佐賀市の球場まで応援に来てくれました。その喜びと、そんな友人たちの期待に応えられなかった悔しさは、今でも忘れられません。終わった瞬間、負けたことよりも「こいつらと一緒に野球することとはもうないんだなあ」と思った泣けてきました。「あの日がなかったら、今の自分はない。」と言える一日

です。今年は、コロナの影響で甲子園が開催されません。夢に挑戦することさえ許されな

い理不尽さに、OBとして、大人として無力さを感じるばかりでした。簡単な言葉はかけられませんが、数年後、これを取り越えた3年生が様々なところで活躍していることを期待しています。

私は2011年に鳥栖に戻り、建築設計事務所を営んでいます。個人で起業した時から、世代を越えた鳥栖高校、特に野球部の先輩や後輩の方々とご縁を多くいただいています。鳥栖高校で過ごした時間は違えども、鳥栖高卒業生という関係をきっかけに、たくさんの方たちと深い繋がりを持つことができています。前向きに一生懸命にやっているといるんな人が助けてくれますので、在校生には眩しいぐらいのキラキラした三年間を過ごしてほしいと思います。



NHK杯決勝での筆者

自由な空間

令和2年卒(第72回生) 高木 彩



猫を探しながら登校してました。朝早くから家を出るのは、補習を受けるた

め以上に、猫を見つめるためだったかもしれません。日が昇って暖かくなりすぎると猫は姿を見せません、暗すぎても猫を見ることはできませんから、日が登る頃に家を出ていました。私は猫との遭遇を心に自転車漕ぎ、大抵は決まったところで猫を見つたり見つけなかったりしましたが、一度だけ、グラウンドの真ん中に佇む猫を見たことがあります。私は意表を突かれた思いで、その猫を見つめました。しんとしたグラウンドの真ん中にたった一人で立つ機

会は、人間の私には、それを妨げるものはほとんどなかったとしても、なかなかないものです。その猫は果たして何処かへ行きました。私はそれ以来、あれほど自由で謎に満ちた猫を見たことはありません。

今では私は学校という場の不思議さとともに、その猫のことを思います。学校はとても多層的な空間でした。教室はかき氷屋になり、アトリエになりました。学問の発生するところとなりました。私たちはそこで、売り子と

なり、画家となり、ともに学問に挑戦する孤独な主体の集合となりました。学校はおそらく、私たちにあらゆる空間のさまざまな可能性を見せていたのです。どこで合唱の練習をするか、どこで教科書を読むか、どこで弁当を食べ、どこでトレーニングをし、どこで絵を描くか。それは自由で、私たちに任せられていました。こうして学校は私たちに、学校のあらゆるところで学ばせ、語らせ、楽しませたのだと思います。

遠く、私は想像することしかできないグラウンドでの生徒の空間に、あの猫はただ佇んでみせ、学校の、その空間のあらたなる可能性を私に教えました。

私はあの猫は今でもどこかで、学校の、ある空間を作りかえてみせているのだろうかと思ってしまうのです。



体育祭平面

鳥栖高校・香楠中学校はいま…

～知を愛し 和を敬い 心を培え～

令和2年3月 大学入試合格状況

東大・京大に現役で合格!!

国公立大学 119名

筑波大学1名・埼玉大学1名・東京大学1名・電気通信大学1名・新潟大学1名・信州大学1名・京都大学1名・大阪大学1名・広島大学4名・山口大学2名・九州大学15名・九州工業大学2名・福岡教育大学2名・佐賀大学40名・長崎大学4名・熊本大学18名・大分大学6名・宮崎大学3名・鹿児島大学4名・琉球大学1名・大阪市立大学1名・山陽小野田市立山口東京理科大学1名・北九州市立大学2名・福岡県立大学2名・福岡女子大学1名・長崎県立大学1名・大分県立看護科学大学1名・宮崎公立大学1名

私立大学 426名 (延べ人数)

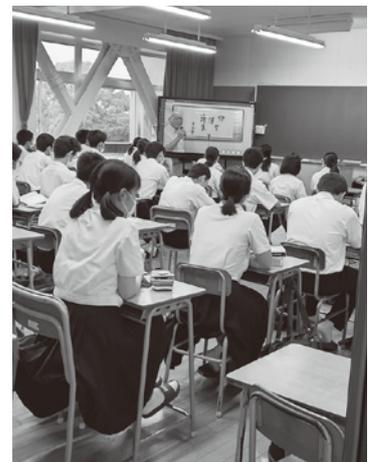
慶応大学2名・早稲田大学2名・中央大学1名・東海大学1名・芝浦工業大学2名・神奈川大学4名・同志社大学2名・立命館大学7名・近畿大学9名・国際医療福祉大学9名・西南学院大学45名・福岡大学139名・筑紫女学園大学7名・久留米大学41名・九州産業大学36名・福岡工業大学23名・中村学園大学20名・純真学園大学16名・崇城大学6名 など

コロナウイルスの感染拡大の影響

鳥栖高校・香楠中学校は3月に卒業式が終わった直後からと入学式の後、2度の臨時休校を経験しました。この間、先生方はリモート授業の準備等に取り組まれました。

5月中旬に一旦平常な状態に戻りました。第2波が来てもリモート授業で対応出来るように準備を進められています。

学校再開後も密をさけるため、リモートの技術を利用して全校集会における校長講話は教室で配信を受けたり、講演会等は1学年が体育館に入り他の学年は教室で配信を受けるようなかたちに変わるなど、昨年までとは違った風景になっています。



オンラインによる終業式

同窓会館の今

卒業生の活躍が目覚ましい今日、卒業生や在校生の活躍を見ていただける様に、香楠会館玄関ロビーに展示スペースを設けました。その様子を日山軍記さん（昭和35年卒）に表紙絵にさせていただきました。

実物をご覧になりたい方は同窓会館まで足をお運びください。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で多くの部活動の大会が中止になりましたので、部活動の記録の代わりに本校に留学していたブルーノ君に寄稿していただきました。

～ ブルーノ君 (ブラジル出身) からのメッセージ ～

令和元年、令和2年共に26HRに在籍



Before starting to write all of this, I spent a lot of time just staring blankly at a piece of paper. So many precious memories were made in just this one year of me being in Japan, that I didn't know where to start.

Maybe I should start by talking about the Sport festival? The competition that I had to take part in during my first weeks of being a Tosu koukou student! The existence of such a major event really surprised me at that time. All the students and teachers were focused solely on the preparations for it for a couple of weeks, which I thought was really impressive!

Or maybe I should talk about the Marathon? Running 3 kilometers non-stop, although it was expected, it was extremely tiresome! But I would always feel so good every time I would break my past records that it made it all worth it at the end. I never thought I could run such a long distance in less than 10 minutes. This was one of the occasions that taught me the real meaning of perseverance.

Or maybe a good start would be by talking about the School excursion! This was one the most fun experiences during my exchange year, all the expectation that was built around it during the first six months of school were met in that snowy day in Niigata! Skiing throughout a whole day, gliding through the snow in such a manner that sometimes it seemed like I was floating, was really exciting. But it doesn't end there; those days spent on Disneyland and at Tokyo were something special, getting (literally) lost in the crowd of people while on the way to next ride looked exactly like a scene from a cartoon.

At the end of the day, although all these big events had a big effect on me, I think that the memories that I treasure the most are the simpler ones: My first time coming to school; the daily conversations during lunch break; going every day to the kendo club; or when going back home, talking to my club mates about what happened on that day or just some random topic. These are the moments that I really cherish the most: The ones where my friends were with me! So I would like to thank everyone one more time for this opportunity and for always being so welcoming! 皆は最高です!

外国語の苦手な諸先輩方のために翻訳文も載せておきます

(翻訳については英語科の中野先生にお願いしました。)

この原稿を書き始めるにあたり、私は長い間用紙をぼんやりと見つめていました。日本で過ごしたわずか1年間で、あまりにたくさんの大切な思い出ができたので、何から書き始めるべきか分からないのです。

でもやはり体育祭の話から始めるべきでしょう。私が鳥栖高校に来てわずか1週間後に参加しなければいけなかった競技会でした。こういった大きな学校行事は、当時の私には本当に驚きでした。全校生徒や先生方が、その準備や練習だけのために数週間を費やすのですが、これは本当に印象的でした。

また、(体育の)マラソンについてもお話しすべきでしょう。3 km をノンストップで走るといのは、分かってはいたけれど本当につらかった。でも、走るたびに記録を更新できるのが爽快だったので、最後にはすべてのことが報われました。あんなに長い距離を10分以内で走れるなんて思いもしませんでした。これは私に困難に負けない忍耐というものを教えてくれた出来事でした。

そして修学旅行についてとなると話が止まりません。今回の留学で一番楽しみにしていたのがこの修学旅行でした。留学してからの半年間で高まった期待が、雪深い新潟で一気に満たされました。一日中スキーをすると、雪の中で時には自分が浮いているような感じがしてとても楽しかったです。でも、それで終わりではなく、東京のディズニーランドで過ごした時間はさらに特別なもので、私は次の乗り物に向かう途中、大勢の人の中で迷ってしまい、その状況はまさに漫画の1シーンのようでした。

最後に、大きなイベントはどれも印象深かったのですが、一番の思い出はシンプルなものです。それは、初めて登校した時のこと。昼休みの他愛ない会話。剣道部での日々。学校からの帰宅。剣道部の仲間とその日にあったことやいろんなこと話したこと。そういったひと時や、友達が私と一緒に過ごしてくれたすべての時間を心から大切に思っています。改めて、私にこのような機会を与え、常に歓迎してくださった皆さんに心から感謝します。皆は最高です!



大同窓会中止のお知らせ

『今年度の「鳥栖高等学校大同窓会」は、昭和 57 年 3 月の卒業生が担当をして、11 月 7 日(土)に、講演会と懇親会を行うことで準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症への懸念や不安が払拭できないことから、出席予定者の健康等も考慮して中止し、来年度担当して実施したい。』という提案をいただきました。

提案を受けて 6 月 12 日(金)に昭和 57 年卒、昭和 58 年卒の代表者にも参加していただいて臨時常任委員会を開催し、提案の通りで行くことを了承しました。

1 年ほどの延期になりますが、新型コロナウイルスが収束し、来年度大同窓会が開催できることを願っております。

香楠会会長 指山 清範

役員総会報告

令和 2 年 5 月 27 日(水)に開催を予定しておりました役員総会は新型コロナウイルスの感染状況拡大により書面決議に代えさせていただきます。役員全員の賛成を得て今年度同窓会活動のスタートを無事に切ることが出来ました。

同窓会員の皆様も健康にご留意されてお過ごしください。

◎会報決算報告

- ・会報「香楠会 17 号」発行に 1,559,632 円支出。10,607 通発送
- ・年会費による収入 1,620,000 円

※年会費振込用紙の変更について

振込手数料の大幅な値上げを受け今年からコンビニエンスストアからの振込のみにしました。ご注意ください。これまで郵便局を利用されていた方は近くのコンビニでお願いします。

同窓会関東支部のお知らせ

山崎 明さん (S54 年 3 月卒) と松隈康史さん (S57 年卒 3 月卒) が関東地区のお世話をしてくださる事になりました。

会報「香楠会」発行について

令和元年度は、810 名の方の年会費納入のご協力が得られました。皆様方から頂いた年会費は、会報の発行費用及び後輩応援のための激励金として活躍した部活動支援に使わせて貰っています。今後も鳥栖高校、香楠中学校の活躍を応援していきたいと考えておりますので、年会費のご協をお願いします。

今年度発行の第 18 号は同窓会名簿発行の調査を兼ねますので全員の方にお送りします。そのため今年度の激励金授与は休止しております。

来年度の再開へ向けにご協力をお願いします。



校正に取り組んでいる会報委員会

ホームページについて

大同窓会の案内や、鳥栖高のあゆみ、鳥栖高人物録などを掲載しています。また、住所変更などの各種変更手続きもホームページより受付できます。今年から閲覧カウンターを付けてみましたので同窓生のアクセス状況がご覧になります。ご利用ください。

ホームページアドレス

<http://kounan-kai.com>

メールアドレス

kounan6001@yahoo.co.jp

〈お願い〉

住所変更等で会報が届かなくなる場合があります。会報を希望される方は住所が変わられましたら事務局までご連絡ください。手続きはホームページからでもできます。

◎同窓会名簿発行のお知らせ◎

今回、令和 4 年 3 月発行の創立 95 周年記念同窓会名簿の調査をおこないます。同封の調査ハガキに必要事項をご記入の上ご返送ください。

なお、以前他団体より似たような案内がこの時期に届いたこともありましたが、**返信先が鳥栖高校同窓会事務局以外のものは同窓会とは何ら関係ありませんのでご注意ください。**

母校である鳥栖高校で教員最後の年を迎える事ができました。まさか新型コロナウイルスでこれまでとは全く違う生活を送ることになるとは思ってもみませんでした。こんな中、例年とレイアウトを若干変更しましたが、第 18 号を発行できたことを嬉しく思います。第 3 号から発行に携わりこれで最後かと思うと若干寂しくもありますが、会報が今後も引き続き発行されていくことを願いつつまた同窓生の皆様健康に留意され同窓会活動に協力して頂けることをお願いして編集後記とします。

長い間お世話になりました。

事務局長

森 浩一

